

受験番号

氏名

「建築意匠・建築史」は問1～問4までの全4問です。試験問題は4ページあります。それぞれの設問の問題文をよく読み、指示に従って解答してください。他の科目と同じ解答用紙には解答しないでください。解答用紙には解答した問番号がわかるように、解答用紙に記入してください。採点時に問番号がわからない解答は0点となります。

## 問1

下記の文章の①～⑩について、ふさわしい語句を解答用紙に「問1 ①×××、②△△△」のように記入してください。

・仏教伝来以前の古代の神社の代表的な形式は大きく分けて2つとされており、屋根と入り口の向きによる形式としては（①）入りで入り口が建物中央にある造りが神明造、（②）入りで入り口が建物の中央にはない左右非対称の平面を持つのが大社造である。①平、②妻

・ビザンチン建築の主要な特徴の1つとして、正方形の平面にドームをかけるにあたって、正方形の四隅から球面の三角形が立ち上がり、上部に半球状のドームをのせる（③）ドームというドーム形式があげられる。代表例として、ギリシャ十字形の平面に5つのドームをのせたイタリア・ヴェネツィアの（④建築物名）などが挙げられる。③ペンデンティブ、④サンマルコ寺院

・ゴシック建築の主要な特徴としては、交差ヴォールトの稜線につけられた（⑤）状の装飾、新円ではなく2つの円弧を交差させた（⑥）アーチ、大開口のある壁面を外部から支える（⑦）などがあげられる。2019年の火災で一部が焼失したパリのノートルダム大聖堂などが代表事例として挙げられる。

⑤リブ、⑥尖頭、⑦フライングバットレス

・日本最古の現存木造建築群とされている法隆寺の西院伽藍に含まれる塔は、（⑧）塔である。上層に移るにつれての大きさの低減が大きく、最上階の1辺の長さは初層の約半分となる。⑧五重

・（⑨）は、鎌倉時代初期に取り入れられ、鎌倉時代後期の寺院建築に多く見られる日本の伝統的な建築様式の1つ。唐様とも呼ばれる。屋根の強い反りや、柱と柱の間にも組物を入れる詰組、放射状の垂木である扇垂木などが特徴。代表的遺構としては、鎌倉時代建設のものではないが様式が忠実に継承されているものとして、円覚寺舍利殿などが挙げられる。⑨禅宗様

・日本におけるモダニズムの展開においては、ル・コルビュジェとアントニン・レーモンドの元で学び、事務所から丹下健三を輩出した建築家である（⑩）の役割は大きい。（⑩）の代表作は、神奈川県立図書館・音楽堂、東京海上ビルディング本館、京都会館、福岡市立美術館など日本各地に点在する。⑩前川國男

## 問2

下記の文章A～Dのうち、内容が正しいものを選択して、「問2 ①A ②A」のように解答用紙に記入してください。

受験番号

氏名

①

- A：古代ローマの建築は、土木構造物・広場と隣接する公共建築・神殿など多彩なビルディングタイプが存在することが特徴である。その中でも、自然の斜面を利用して設けられた屋外劇場は、古代ローマの都市に多く見られる。斜面を客席としており、屋根も設けられないため、外観がほとんどないことが特徴である。エピダウロスの劇場などが代表事例として挙げられる。 ×
- B：古代メソポタミアの都市のうち、ペルシャのペルセポリスの宮殿遺構は、そのすべてが石造となっており、高い石工技術が存在していたことがうかがえる。 ×
- C：バロック建築の特徴としては、ぶあつい石造の壁、半円アーチ、各ベイに設けられた交差ヴォールトなどが挙げられる。ドイツのバロック様式の教会の特徴は、三廊式で各ベイに交差ヴォールトがのるなど、典型的なバロックに近いといえる。ただし、祭室が東西の両方にあることが多い。これは、世俗の王も礼拝対象としたためとみられている。代表事例にはシュパイヤー大聖堂などがある。 ×
- D：ルネサンスは、古代ギリシャ・ローマの文化復興運動。建築においては15世紀に入ってから主に展開する。建築的特徴としては、古代ローマのオーダーの使用、バシリカ式ではなく集中式プランの再評価などが挙げられる。例えば、ルネサンスの集中式プランの代表事例としては、ブラマンテによるテンピエットが挙げられる。

正答

②

- A：唐招提寺は室町時代の寺院建築の代表事例である。金堂が基壇上に建ち、7間×4間の平面を持つ。前面1間が吹き放しとなっており、非常に解放感がある。身舎部分は5間×2間となっている。 ×
- B：日本に現存する城郭建築のうち、江戸時代以前に建設され現代まで残っている天守閣を有しているのは12か所である。その中でも、二条城はひときわ大きな天守閣が現存しており、五重6階地下1階の大天守と、3重の小天守3基を渡櫓で連結した連立天守で、白漆喰で塗られた城壁が美しい。別名・白鷺城ともよばれている。 ×
- C：利休の茶室として現存するものは、妙喜庵に設けられた待庵が唯一のものであると考えられている。 **正答**
- D：寺院建築における技術革新として、白鳳時代において野屋根が発生したことは大きな出来事である。飛鳥時代を通して、仏堂の平面が増大し、庇が大きくなることで、屋根重量の増大、屋根勾配が緩くなることによる雨仕舞の悪化が起きた。そこで、白鳳時代に野屋根が発生することで、内部と外部の屋根面が分離することで、それらの問題の解決が図られた。 ×

受験番号

氏名

③

A：ゴシック・リヴァイヴァルは19世紀初頭からの様式が相対化する中で一つの動向である。フランス革命期の破壊行為への反省から、中世建築に歴史的・文化的価値を見出し、ゴシック建築が持つと考えられていた構造的合理性を評価した。また、ゲルマン諸国のアイデンティティの表現としてゴシックが取り上げられたという、ナショナリズムの台頭と連動した側面も持っている。 **正答**

B：エレクトシズムは、建築の色彩や材料に関する再評価運動である。ルネサンス以降の建築論は、プロポーションのみを扱い、色彩は問題とされなかったが、考古学的な古代調査により、遺跡が当初は極彩色に塗られていたことが判明してくる。そこで、イギリスやオランダなど、伝統的に煉瓦を用いてきた国で、煉瓦という材料の再評価が起こり、煉瓦の焼成による色彩の多様性と白い石材との併用が盛んに行われた。 **×**

C：マニエリスムとは理論面において近代の建築に大きな影響を与えた運動。19世紀末から20世紀初頭にかけて、ウィリアム・モリスを指導者としてイギリスで起こった工芸美術改革の動き。理論的な支柱はジョン・ラスキンである。ラスキンやモリスは中世の手仕事を理想とし、機械とそれによる大量生産を排斥した。建築の材料や構法や意匠が「虚偽」でなく、「真実」「誠実」でなければならないといった強い倫理観はモダニズムに通底する。 **×**

D：CIAMとは、第2次世界大戦後に、戦災による世界的な住宅難を契機に結成された、近代建築家による国際会議である。ル・コルビュジェの他、建築史家のジークフリート・ギーディオらが中心メンバーとなり、世界の建築界を理論的にリードした。 **×**

④

A：日本の建築の近代化において、明治初期にはお雇い外国人とよばれる外国人専門家が活躍した。アントニン・レーモンドはそういったお雇い外国人の一人であり、造幣寮鑄造正面玄関などが代表作である。 **×**

B：帝冠様式とは、日本で1930年代に、伊東忠太、佐野利器、武田五一らが推進した和洋折衷的な建築様式。彼らが審査員を行った競技設計において、規定に「日本趣味」が盛り込まれ、RC造の建築に和風の屋根をかけたデザインが選定された。それらの様式を一般に帝冠様式とよんでいる。東京帝室博物館（現・東京国立博物館本館）などが、帝冠様式の代表事例として挙げられる。 **正答**

C：南米では、1930年代後半以降、モダニズム建築が次々と建設される。その一つであるブラジルのニテロイ現代美術館は、リナ・ボ・バルディの設計によるもので、トンネルの上に建つという制約条件から、美術館のボリュームを4つの足で浮かせ、広い庇下空間を持つ建築である。 **×**

D：日本では、第二次世界大戦後の資材不足下において、建築家によってさまざまな最小限住宅の試行がなされた。塔の家は、東京の極小敷地に建てられた最小限住宅の試みで、池辺陽設計によるものである。 **×**

⑤

A：レム・コールハースは、著書『S, M, L, XL』において「less is more」という概念を提示している。この概念は、装飾をそぎ落としていくことで獲得される別種の豊かさを示している。 **×**

B：ル・コルビュジェの提唱した「ユニバーサルスペース」は、無限に収蔵物の増える美術館を拡張していく考え方である。鉄骨のフレームによってできた平屋建ての建築を、無限に周囲に増築していくことで、ニュートラルな展示空間を拡張し続けるという方法である。 **×**

C：菊竹清則は、「代謝建築論」という建築理論を用いて、建築運動であるメタボリズムを主導した。代表的な設

受験番号

氏名

計作品として、スカイハウス、東光園、都城市民会館などが挙げられる。 正答

D：2024年にプリツカー賞を獲得した山本理顕は、地域社会圏という考えに基づいて、一定規模の人数規模で低～中層集合住宅に居住することで、コミュニティミックスや、エネルギー共有、共同体内での小さな経済循環を行うべきであるということを主張している。山本設計の熊本県営保田窪住宅は、県営住宅でありながら、当初から住宅兼店舗という使用ができる先進事例として建設された。 ×

### 問3

建築におけるアール・ヌーヴォーについて、時代背景や特徴、代表的事例などについて知ることを解答用紙に記入してください。解答部分の冒頭には問3と表記すること。

- ・19世紀末から20世紀初頭にかけて行われた、国際的な美術・芸術運動の一つ。
- ・建築分野だけでなく、家具などの工芸品やグラフィックデザインでも行われた。
- ・装飾的には花や植物、女性の髪の毛といった有機的、自由曲線的なモチーフを用いた。
- ・鉄・ガラスといった新素材も積極的に用いている。
- ・ヴィクトル・オルタのタッセル邸、エクトール・ギマールによるパリ地下鉄駅出口、ヨゼフ・マリア・オルブリヒのゼセッション館（分離派会館）など。ガウディの一連の作品も大きくはアールヌーヴォー（スペイン・モデルニスモ）の作品としてくられる。

など

### 問4

近年、木造ビルをはじめとする大規模木造建築が建築可能な規制緩和・法改正や、大断面集成材やCLTなどをはじめとするエンジニアリングウッドと呼ばれる加工木質材料の利用推進・技術開発が進行している。大規模木造建築やエンジニアリングウッドの普及によって期待される効果について述べてください。字数は400字程度までとする。解答部分の冒頭には問4と表記すること。

- ・木材利用の推進による、森林更新、更新による新規の炭素吸収による温室効果抑制。
- ・上記について、建築による木材利用を行えば、炭素固定がされたままとできる。
- ・国産材を用いる場合、国内林業の活性化が期待できる。

など